

玉川教会たより
NO. 473
9月27日



しかし、ヤコブが取り上げているのは、分け隔てされていることへの反発ではありません。

▼世の中には、えびいきがあり、人の分け隔てがあります。誰もがそのことを知っています。誰もが体験しています。誰もがそのことで苦しみ、悔しい思いをしています。異体例を挙げるまでもありませんでしょう。

私自身も体験しています。話をし始めたら、終わらないうらい沢山あります。夢中になって、一晩中たって話せます。愉快な話ではありませんから、まあ、止めておきましょう。

人を分け隔てするな

▼私たちが分け隔てされることには、極めて敏感です。ほとんどの場合、極めて敏感です。ほんのちよつとしたことだつて、見逃すものではありません。しかし、分け隔てすることについては、実に鈍感で、しているという自覚がありません。また、この程度は仕方がないと、正当化してしまいます。

▼この節。
「あなたがたの集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また、汚らしい服装の貧しい人も入って来るようになります。その立派な身なりの人に特別

はなく、分け隔てする側に対して、それをたしなめています。教会が、分け隔てしているを告発しています。

別」目を留めて、「あなたは、こちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、

▼NHKテレビで「ダウンタウン・ブレイクイン・ドラマ」を放映してしました。第2次世界大戦前後のイギリス、貴族の館が舞台です。物語の筋骨きは紹介する必要がありません。

お話ししたのは、イギリスの階級制度の現実です。信じられないくらいひどいものだ。イン下のカーズトと変わらないうではないかとさえ言いたくなりました。

それは、ディケンズを読んでも、コナン・ドイルやアカサ・クリスティでも同じように描かれていて、まあ

時代が時代ですから、少しも不寛容ではありません。程度の差はあっても、現代でも、このよう分け隔て差別は、異端いなく存在します。

別」目を留めて、「あなたは、こちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、

- 1: わたしの兄弟たち、栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません。
- 2: あなたがたの集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また、汚らしい服装の貧しい人も入って来るとします。
- 3: その立派な身なりの人に特別に目を留めて、「あなたは、こちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、
- 4: あなたがたは、自分たちの中で差別をし、誤った考えに基づいて判断を下したことになるではありませんか。
- 5: わたしの愛する兄弟たち、よく聞きなさい。神は世の貧しい人たちをあえて選んで、信仰に留ませ、御自身を愛する者に約束された国を、受け継ぐ者となさったではありませんか。
- 6: だが、あなたがたは、貧しい人を辱めた。留んでいる者たちこそ、あなたがたをひどい目に遭わせ、裁判所へ引つ張って行くではありませんか。
- 7: また彼らこそ、あなたがたに与えられたあの尊い名を、冒瀆しているのではないですか。
- 8: もしあなたがたが、聖書に従って、「隣人を自分のように愛しなさい」という最も軽い律法を実行しているのなら、それは結構なことです。
- 9: しかし、人を分け隔てするなら、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって逸犯者と断定されます。 … ヤコブへの手紙2章